いちおし本だな

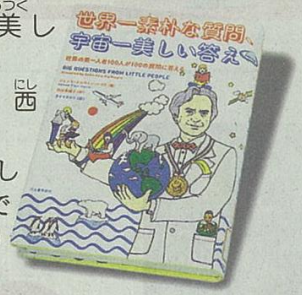
未来を切り開くヒント

12月10日には、毎年ノーベル賞の授賞式があります。今年の日本人受賞者は、ノーベル医学生理学賞の本庶佑さんです。発明や研究で成果を出すのは難しいことですが、未来を切り開くヒントが見つかる本を紹介します。

（山梨県立図書館　井上夏菜）

小学5・6年生向け

「世界一素朴な質問、宇宙一美しい答え」



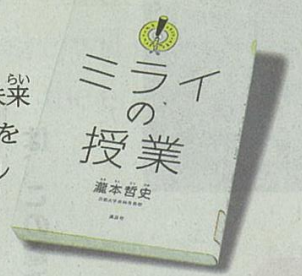
ジェンマ・エルウィン・ハリス編　西田美緒子訳　タイマタカシ絵

「宇宙はなぜあんなにキラキラしているの？」や「わたしは、なにでできているの？」など、イギリスの小学生から寄せられた100の質問に研究者やスポーツ選手、作家など、それぞれの分野の第一人者が答えます。例えば、「地球のなかには、なにがあるの？」という質問には、イアン・スチュアートという地質学者が答えています。「岩だ。それも、厚さが六〇〇〇キロメートル以上もある岩！」というように、回答者ごとに口調が違い、質問に直接答えてもらっているようです。ユーモアたっぷりのものから、最先端の発明を紹介しているものまで、今まで疑問に思っていたことが解決したり、自分でも調べてみたいことが見つかるかもしれません。

（河出書房新社・2700円）

中学生向け

「ミライの授業」



瀧本哲史著

著者が全国の中学校を訪ねて、未来を生きる14歳に向けて行った講義をまとめた一冊です。エジソンやビル・ゲイツなど世界を変えてきた人物を紹介し、「未来をつくる５つの法則」を伝える特別講義です。

この中で、山梨県出身の大村智さんも紹介されています。大村さんは、学生時代はスキーに熱中し、大学卒業後は高校で教師をしていました。その後、働きながら大学院で学び直し、研究者となり、他の人が手を付けていない「空白地帯」に仮説を立て、2015年にノーベル生理学・医学賞を受賞しました。

これから先の未来をどう変えていくのか、考えるきっかけになる本です。進路を考えるときの参考にもなります。

（講談社・1620円）

小学1・2年生向け

「６この点」

ジェン・ブライアント文　ボリス・クリコフ絵　日当陽子訳

ルイ・ブライユは５歳のとき、けがが原因で失明してしまいます。家族はわらや革、くぎを使って文字を作ってくれましたが、村には目の見えない子どものための本がありません。自分で読んだり書いたりしたいと考えたルイは、目の見えない人のための本があるという、パリの王立盲学校に行くことを決めます。しかし、盲学校にあった本は一つの文字がとても大きく、すぐに読み終わってしまいます。ルイはがっかりしますが、ある日校長先生が、点を組み合わせて作る、手で触って読む暗号を教えてくれました。その後、ルイは一人でその暗号を改良し、ついに点字を完成させます。

今も世界中で使われている点字を作り上げた、15歳の発明家の物語です。

（岩崎書店・1836円）

小学3・4年生向け

「いのちにつながるノーベル賞」

若林文高監修

ノーベル賞は1901年に創設され、これまでに多くの研究や活動に授与されてきました。健康上の問題を抱えていたノーベルは、医学研究にも科学としての重要性を感じ取っていました。この本では、生理学・医学賞を中心に、「いのちにつながる」受賞を取りあげています。山中伸弥さんが受賞したｉＰＳ細胞の開発や、血液をＡ・Ｂ・ＡＢ・Ｏの四つの型に分類する血液型の発見、救護活動などを行う赤十字の創設など、多くの人の命を救う研究や活動について紹介し、現在の社会でどのように役立っているか説明しています。また、受賞者の経歴や研究に関するエピソードも紹介されていて、伝記としても読める一冊です。

（文研出版・3024円）